

記載例

様式第1号（第6条関係）

ばい煙発生施設設置(使用・変更)届出書

不要なものを削除する

提出先に応じて記載

年 月 日

徳島県知事
(南部・西部) 総合県民局長

殿

届出者 ○○市○○町○○丁目○○番地
株式会社 ○○
代表取締役 ○○ ○○

個人の場合は個人名を記入
法人の場合は法人名並びに代表者
の氏名を記入
代表者でない場合は委任状が必要

(氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名)

徳島県生活環境保全条例第8条第1項(~~第9条第1項・第10条第1項~~)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

不要なものを削除する

工場又は事業場の名称	株式会社○○	※ 整理番号	
工場又は事業場の所在地	○○市○○町○○丁目○○番地	※ 受理 年 月 日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	第3項 廃棄物焼却炉No.1	施行令別表第1に掲げる項番号及び名称、施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※ 審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※ 備考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、徳島県生活環境保全条例別表第2に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。

別紙1

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		No. 1	→施設ごとに適宜一連番号を与えて記入する。
名 称 及 び 型 式		△△△製○○○型 立型焼却炉	→製造会社名、型式、焼却炉種類を記入する
設 置 年 月 日		年 月 日	→使用及び変更届の場合に記入する。
着 手 予 定 年 月 日		R 3 年 9 月 1 日	ばい煙発生施設に係る関係工事（基礎 →工事を含む。）に着手する予定年月日を記入する。
使 用 開 始 予 定 年 月 日		R 3 年 9 月 3 0 日	→ばい煙発生施設の本運転を行う日を記入する。
規 模	伝 熱 面 積 (m ²)		
	燃 料 の 燃 焼 能 力 (重油換算 l/h)	5 0	→液体、ガス、微粉炭燃料を使用する場合に記入する。
	原 料 の 処 理 能 力 (t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)	1 . 5	→火格子がない場合参考として炉床面積を記入する。
	変 圧 器 の 定 格 容 量 (KVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)		
	焼 却 能 力 (kg/h)	1 8 3 . 5	→この施設で焼却する最大焼却量を記入する。
	乾 燥 施 設 の 容 量 (m ³)		
模	電 流 容 量 (KA)		※規模の欄については、その施設の定格能力で記入する。
	ポ ン プ の 動 力 (KW)		

- 備考 1 設置届出の場合には「着手予定年月日」及び「使用開始予定年月日」の欄に、使用届出の場合には「設置年月日」の欄に、変更届出の場合には「設置年月日」、「着手予定年月日」及び「使用開始予定年月日」の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 「規模」の欄には、徳島県生活環境保全条例別表第2に掲げる施設の種類ごとにそれぞれの「規模」の欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入すること。

※変更届出の場合は変更前後がよくわかるように変更前後の区別を明記し、それぞれ記入すること。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		No. 1		→「ばい煙発生施設の構造」の部分に記入した施設番号を記入する。
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	12時～ 16時 4時間/回1回/日25日/月		→当該施設を最も多く使用する期間における平均使用状況を記入する。
	季節変動	なし		→使用しない月を記入する。 (例 4月～6月休止)
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに 限る。)	種類	木屑、紙屑、廃プラ		原料については、すべての種類について使用割合とともに明記し、いおう分についてはすべてのものを燃やした場合の平均とする。 なお、別紙にいおう分についての計算方法を添付する。
	使用割合	木屑80%、紙屑15%、 廃プラ5%		
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 0.1 カドミウム分	鉛 分 弗素分 クロム分	
	1日の使用量	1,468kg		
燃料又は 電力	種類	A重油(〇〇石油)		→使用燃料の種類を具体的に記入する。
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.07	いおう分 1.50	→重量比、容量比の別を明確に記入する。
	発熱量	(高) 10,800kcal/kg		→高発熱量又は低発熱量の区別を明確に記入する。
	通常の使用量(ℓ/h)	30ℓ/h		
	混焼割合	専焼		→混焼の場合それぞれの割合を記入する。
排出ガス 量 (Nm ³ /h)	湿り	最大 6,152	通常 5,528	最大は、バーナー・焼却物等を最大使用したときのものであり、通常は一般的に使用する場合のものである。
	乾き	最大 5,976	通常 5,418	
排出ガス温度(℃)		300		→煙道出口温度を記入する。
排出ガス中の酸素濃度(%)		12.0		→煙道出口酸素濃度を記入する。
ばい煙の 濃度	ばいじん(g/Nm ³)	最大 0.25 (0.25)	通常 0.20 (0.20)	ばい煙の濃度については、煙道出口の濃度を記入する。(処理施設で処理した後の最終出口の値) いおう酸化物に係るもの以外については、同機種、同燃料使用のものであって、他工場・事業場で使用しているものの実測データをもとに記入する。 ばいじんについては、() 書きで酸素換算濃度も記入する。 いおう酸化物については燃原料に含まれるS分から計算により求める。 塩化水素及び窒素酸化物は、参考値として記入する
	いおう酸化物 (容量比ppm)	最大 173	通常 85	
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常	
	塩素(mg/Nm ³)	最大	通常	
	塩化水素(mg/Nm ³)	最大 参考 376	通常 参考 274	
	弗素、弗化水素及び弗 化珪素(mg/Nm ³)	最大	通常	
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常	
	クロム及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常	
	窒素酸化物 (容量比ppm)	最大 参考 170	通常 参考 170	
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最大 0.356	通常 0.128	
参考事項				

- 備考 1 「原材料中の成分割合(%)」の欄及び「燃料中の成分割合(%)」の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 「ばい煙の濃度」は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 「ばい煙の濃度」は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設については、「参考事項」の欄に一工程中の排出量の変動の状況を記載すること。

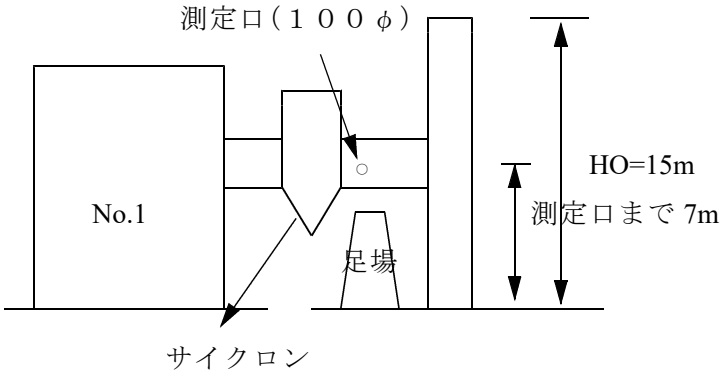
ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号			No. 2、3		→処理施設ごとに適宜番号を定める。	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号			No. 1			
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式			サイクロン＋ステンレス製煙突		「ばい煙発生施設の構造・使用方法」で記入した番号を記入する。 ばい煙処理施設の種類を記入する。 →（煙突も処理施設と考える。）	
設置年月日			年 月 日		→使用及び変更届の場合に記入する。	
着手予定年月日			R3年 9月 1日		処理施設の着年月日。設置届の場合 →は施設着手年月日と同じ日付となる。	
使用開始予定年月日			R3年 9月 30日		→処理施設の本稼働を行う日を記入する	
処理能力	排出ガス量	最大	6,152		「ばい煙発生施設使用の方法」で記入した湿り排出ガス量を記入する。	
		通常	5,528			
	排出ガス温度	処理前	300		処理前は処理施設入口の温度であり、 処理後は最終出口の温度である。	
		処理後	300			
	ばい煙の濃度	ばいじん	処理前	0.50		処理前は処理施設の入口の濃度であり、 処理後は処理施設を通過した後、 最終出口の濃度である。 （濃度は最大値で記入する。） 処理施設がない場合には処理後の濃度のみを記入する。
			処理後	0.25		
		いおう酸化物 （容量比ppm）	処理前			
			処理後	173		
		カドミウム及びその化合物 （mg/Nm ³ ）	処理前			
			処理後			
		塩素	処理前			
			処理後			
		塩化水素	処理前			
			処理後	376（参考）		
		弗素、弗化水素及び弗化珪素 （mg/Nm ³ ）	処理前			
			処理後			
	鉛及びその化合物 （mg/Nm ³ ）	処理前				
		処理後				
	クロム及びその化合物 （mg/Nm ³ ）	処理前				
		処理後				
窒素酸化物 （容量比ppm）	処理前					
	処理後	170（参考）				
ばい煙量	いおう酸化物 （Nm ³ /h）	最大	処理前		処理前は処理施設の入口の量であり、 処理後は処理施設を通過した後、 最終出口の量である。 （量は最大値で記入する。）	
		通常	処理前			
		通常	処理後	0.356		
		通常	処理後	0.128		
捕集効率（％）	ばいじん		50		捕集効率は次式で算出、 $\frac{\text{入口のばい煙濃度}-\text{出口のばい煙濃度}}{\text{入口のばい煙濃度}} \times 100$	
	いおう酸化物					
	カドミウム及びその化合物					
	塩素					
	塩化水素					
	弗素、弗化水素及び弗化珪素					
	鉛及びその化合物					
	クロム及びその化合物					
使用状況	一日の使用時間及び月使用日数等		12時～16時4時間/回1回/日 25日/月		「ばい煙発生施設の使用の方法」と 同じものを記入する。	
	季節変動		なし			
排出口の実高さ Ho(m)			8		地表よりの高さ。施設がビルの上にある場合ビルの高さも加えたもの。 →傘付、H型等排ガスの上方拡散が妨げられた構造のものは、H _o ＝H _e	
補正された排出口の高さ He(m)			12.7			
排出速度 (m/s)			7.2			
敷地の境界線の地表における六価クロム化合物の濃度			別紙のとおり			

- 備考 1 設置届出の場合には「着手予定年月日」及び「使用開始予定年月日」の欄に、使用届出の場合には「設置年月日」の欄に、変更届出の場合には「設置年月日」、「着手予定年月日」及び「使用開始予定年月日」の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 「ばい煙の濃度」は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 「補正された排出口の高さHe(m)」は、徳島県生活環境保全条例別表第9の算式により算定すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

← 不要な項目を抹消する。例は設置届である。

ばい煙発生施設設置（使用・変更）届出書添付書類

1. ばい煙の排出の方法並びにばい煙の発生及び処理に係る操作の系統の概要	 別紙に記載も可、煙突高さ、処理施設から煙突までの経路等を記載。 測定口については、高さ、足場及び口径等を記載。
2. ばい煙発生施設及びばい煙処理施設の設置場所	別紙のとおり
3. 煙道の排出ガス測定用の箇所	別紙のとおり
4. 緊急連絡用の電話番号及び緊急時の連絡方法	088-621-2274（担当： ）

1. ばい煙の排出の方法については、例えば煙突から排出している、排出口がなく窓から直接大気中に排出している等がわかるように模式的に図示すること。ばい煙がばい煙発生施設から煙突を経て大気中に排出される途中、サイクロン・ファン等により排出ガス量、温度、いおう酸化物量及びばい煙濃度（いおう酸化物・ばいじん・窒素酸化物等）のいずれかが変化する場合は、その変化の状況を明示すること。排出ガス測定口の位置を図示し、煙突の高さ・口径・断面積を記載すること。
2. ばい煙発生施設処理施設の設置場所は、工場又は事業場内における設置場所を図示し、工場又は事業場付近見取図も添付すること。
3. 煙道の排出ガス測定用の場所は、足場等付近の状況を含め図示すること。